

かかわり合いを通して、自分の考えを表現し、 深めていく子どもの育成

佐渡市立小木小学校

1 学校の概要

小木小学校（高橋高志校長，全校児童87名）は，佐渡の南端に位置し，金銀の積み出しや北前船の寄港地として栄えた港町にある。大昔の海底火山の活動によりつくられた独特な風景は，佐渡ジオパークの一部として国の天然記念物及び名勝の指定を受けている。その地形を生かした磯ねぎ漁で使われるたらい舟や広く平らな海岸で収穫される岩のりは，総合的な学習の時間や佐渡学での学びの場になっている。また，小木は鼓童の拠点地であり，夏にはアースセレブレーションや小木港まつりで島内外の人たちが集う，賑わいの場となっている。

子どもが地域の魅力を存分に感じ，追究する活動を地域と共に推進し，ふるさと「小木」を愛する子どもを育てている。



2 N I E実践のねらい

今年度は，N I E実践研究校の指定を受け，1年次研究となる。当校の研究主題「かかわり合いを通して，自分の考えを表現し，深めていく子どもの育成」を踏まえ，新聞を媒体としたかかわり合いの場を設定する。具体的には，自分の考えと比較しながら友達の考えを聴くこと，友達の考えを手がかりに自分の考えを自覚し，友達と考えを交流させることで自分の考えを見つめ直す子どもの姿を目指す。そのために，教師は，新聞を活用した必要感のある課題設定と目的意識のある話し合いの場が設定できるように手立てを講じる。それらの活動を通して，思考力・表現力・判断力を培っていく。

3 本年度実践の概要

(1) 環境整備

① N I Eタイムの取組

毎週水曜日の朝学習を「N I Eタイム」と名付け，各学級で新聞に親しむ活動を行った。

子どもが抵抗なく新聞を読むとともに，興味・関心をもって楽しく読むことができるように，段階的に新聞に触れさせていった。



4月…PTA総会でNIE研究校に委嘱されたことを保護者に伝える。

5月…NIEタイム開始

全校放送で校長先生から新聞を活用して学習することを伝える。

新潟日報 まいにちふむふむ「ちがいがし」

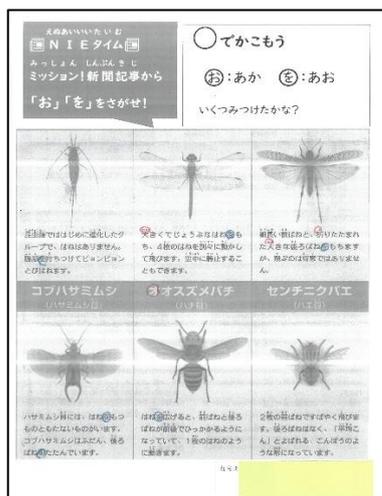
新潟日報 まいにちふむふむ「子どもクロスワード」など

6・7月…読売KODOMO新聞、朝日小学生新聞を読む。

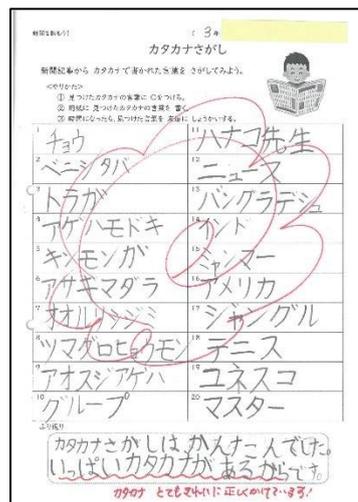
2学期からは、担任裁量で下記の活動を行った。

1・2年生	3・4年生	5・6年生
・「読売新聞 ワークシート通信」の活用		
<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなさがし ・カタカナさがし 	<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナさがし ・アルファベットさがし ・データベースを読む。 ・付箋に感想を書き、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースを読む。 ・付箋に感想を書き、感想を伝え合う。 ・新聞スクラップ

< N I Eタイムの実践例 >



ひらがなさがし



カタカナさがし



アルファベットさがし

付箋に感想を書き活動 →



データベースをTeamsにアップして、記事を読む活動 →



↑新聞スクラップ

② N I E コーナーの設置

子どもが新聞に興味をもち、読んでみたくなるような環境づくりとして、児童玄関前に新聞を自由に閲覧できる「N I E コーナー」を設置した。

ア 掲示板の活用

掲示板には、季節や時期に合った記事を集めて掲示をした。他にも校内の掲示板を活用して新聞記事を紹介するコーナーを設けた。

- ・各学年の廊下（学年部）… N I E タイムや授業で活用した記事
- ・校長室前（校長）… 小木地区や子どもに関する記事
- ・図書室前（図書館司書）… 本に関する記事や新聞の活用術



イ 閲覧コーナーの設置

各新聞社の読み比べができる閲覧コーナーには、教師による「〇〇先生のおすすめ記事」や図書委員会による「おすすめの記事紹介&クイズ」を掲示し、児童が自ら新聞記事を読むように促す工夫をした。

子どもたちは、足を止めて記事や教師のコメントを眺めたり、休み時間に気になった記事を読んだりしていた。



ウ 保護者への啓発

授業参観や文化祭で保護者に教育活動の様子を知ってもらえるように校内掲示や閲覧コーナーを設けた。



(2) 校内研修

今年度は、N I E 実践 1 年目として、授業でどのように新聞を活用できるかを探るため、教科・領域の指定は行わず、各学年の実態に合わせて授業実践に取り組んだ。下学年部と上学年部の 2 部に編成し、全職員が指導案検討・模擬授業を設定して公開授業に臨んだ。

6 月には、新潟日報社読者局参与 木村 隆様にご来校いただき、新聞のつくり・読み方の講座をしていただいた。

8 月の職員研修では、新聞と新潟日報のデータベースを活用し、授業研究や 2 学期に活用できそうな記事探しを行った。



<公開授業研究の内容>

学年	教科等	単元名等 ☆使用した新聞記事	新聞活用のねらい
1 年	国語	「せつめいする文しょうをかこう」 ～新聞で図鑑「じどう車くらべ」の 記事をつくろう～ ☆朝日小学生新聞 シリーズ記事『しんぶんて ずかん』	表現方法の獲得
2 年	生活科	「えがおのひみつたんけんたい」 ☆新潟日報 2018 年 8 月 9 日 『夢乗せる仕事に誇り』等	単元導入の 学習課題づくり
3 年	社会	「店ではたらく人と仕事」 ☆新潟日報 2023 年 7 月 1 日 『食品値上げ 3 万 5000 品目へ』等	単元導入の 学習課題づくり
4 年	道徳	「いろいろな性ってなんだろう？ (ALLY TEACHER' S TOOL KIT)」 ☆新潟日報 2023 年 3 月 16 日 『心と体の違和感「悩む人多い」』等	テーマに沿った 類似記事の提示
5 年	道徳	「ちひろの思い」わたしにできること ☆新潟日報 2023 年 6 月 10 日 『停電支援にお礼の山菜』等	テーマに沿った 類似記事の提示
6 年	国語	「今、私は、ぼくは」 ☆新潟日報 『「けえ」さん効果浸透中』等	情報の取り出し、 考えをまとめる
6 年	外国語	ものの様子や特徴、自分の気持ちを伝えよう ☆読売 KODOMO 新聞 シリーズ記事『What' s up? English』	表現方法の獲得
特別 支援	国 語	「どちらを選びますか」 ☆朝日小学生新聞 シリーズ記事『動物園のスターたち』	情報の取り出し、 考えをまとめる

4 実践例

(1) 第2学年 生活科「えがおのひみつ たんけんたい」

①単元のねらい

小木の町で働く人に着目することで、小木の人たちにかかわり、もっと小木のことを知りたい、調べたいと思う気持ちを高める。

②新聞活用のねらい

・小木の町で働いている3人の顔写真や新聞記事から、共通点である「えがお」に気付き、その理由を考える。(本時)

③使用した新聞記事

- ・「夢乗せる仕事に誇り」 (新潟日報 2018年8月 9日)
- ・「老舗旅館趣そのまま」 (新潟日報 2020年7月16日)
- ・「島の季節創作料理に込め」(新潟日報 2023年5月24日)

④目的意識を明確にした「かかわり合い」の手立て

新聞の写真部分を提示し、働く人の服装や周りの様子からそれぞれの職業を予想させる。記事の内容を紹介し、地域の人の、働くことや小木への思いを想像させ、子どもの言葉で表現させる。

⑤授業の実際

新聞の写真部分を見せるとすぐに「見たことある!」と反応し、思ったことを話し始めた。新聞記事から写真の人の情報を知りたいと声を出す子、小木にしかないものに着目した子など様々な視点で意見を述べていた。

(2) 第6学年 国語科「今、私は、ぼくは」

①単元のねらい

自分の思いを伝えるスピーチをするために、効果的に資料を提示することや、自分の考えが相手に伝わるように表現を工夫する。

②新聞活用のねらい

- ・特に話題にしたいことを新聞記事から選ぶ。
- ・例示した資料から、効果的な資料がどのようなものかを考える。新聞から相手に伝えたい言葉、共感した文章を抽出し、資料を作成する。(本時)

③使用した新聞記事

- ・「「けえ」さん効果浸透中」 (新潟日報2023年10月18日)
- ・「信念を持って続けて」 (新潟日報2023年11月 2日)

④目的意識を明確にした「かかわり合い」の手立て

I C Tを活用して作成した資料をペアで交流させる。3つの視点(①資料の意図、②相手の資料のよさ、③自分ならこうする)をもたせ、自分の資料を振り返ると同時に、相手にどう捉えられているかに気付かせる。

⑤授業の実際

ペアで資料を見直すことで、「佐渡」から特定の地域に絞ったり、文章を入れ替えたりして読み手に分かりやすく表現する姿が見られた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・子どもが新聞から社会の出来事や情報を知ることができるようになった。
- ・子ども新聞（中のシリーズ記事）は、読むきっかけや習慣になった。
- ・N I Eタイムを設定して、子どもが新聞に触れる時間と場を設けることで日常的に新聞を読もうとする姿につながった。
- ・新聞社のワークシート活用で、新聞の読み方を理解させることができた。
- ・見出しや写真、イラストから新聞のおもしろさに気付かせることができた。
- ・授業を通して、学習に関係する新聞記事を読み考えさせることで、世の中の出来事に気付いたり、人の思いや考え方に気付いたり、さらに自分と比較することで考えを広げ深めることができた。
- ・教師自身も新聞を読むようになり、授業研究で新聞活用の方法を広げることができた。
- ・子どもが新聞に慣れ親しむ環境づくりを職員全体でつくることができた。

子どもの新聞アンケートより

Q. 前より新聞を読むことが好きになりましたか。

- いろいろな記事があって読むのが楽しくなったから。
- 自分が知らなかったことが分かるから。佐渡のところがおもしろい。
- 前は新聞に興味がなかったけど、N I Eタイムで読むようになって、玄関前の新聞を読むようになっておもしろいと思ったから。
- 今まで新聞は大人が難しいことを読んでいる印象で、私には難しいと思っていただけ、今では楽しく新聞を見ることができるようになった。

Q. 前より新聞を上手に読めるようになりましたか。

- 先に見出しを見て、読みたい記事があったら読むようにしている。
- どこに〇〇欄があるというのが分かってきたから。
- どこから始まって、どこにつながるかが分かったから。
- △本を読むのがあまり好きでないから、新聞もあまり好きでない。

(2) 課題と対策

- ・下学年では、新聞を活用する場面が限られる。そこで、今後は「子ども新聞」の活用方法を探る。また、教師が、子どもに理解できる言葉に言い換えて読み聞かせるなどの支援を行う。
- ・読むこと自体を苦手としている子どもがいる。そこで、興味・関心のある記事を読むことができるように、新聞に触れる場や機会を工夫する。子どもが問いや考えをもつ、心に響く記事選びをする。
- ・新聞を活用して授業を設計するのは難しい。そこで、N I Eタイムの積み重ねを授業に生かす。①新聞記事に対して自分の考えを書く②友達の考えを聞く（かかわり）③自分と友達の感じ方を知り、考えを広げ、深めるのN I Eタイムを土台にした学びのサイクルをつくる。長期的・計画的な視点を持ち、単元づくりをする。
- ・2年次に向けて、1年目の成果や課題を生かした計画的で継続した授業研究の取組を行っていく。そのために、教科や研究テーマを絞り、子どもが自分の考えを深められるよう、効果的な新聞活用の方法を研修していく。

（渡邊 あずさ）